大津のことが もっと好きになる情報誌

広報おおづ

3
MARCH 2020

広報が読めるスマホアプリ マチイロ

今月のみどころ

菊池地域合同特集

おとなりさんは がいこくじん

今月の表紙

麦踏みフェスティバルで笑顔でドラム缶を転がす園児。イベントを通じて農業に触れました（記事は17頁）。

Public relations OZU TOWN
広報おおづ 2020 3
発行・編集■大津町・総務課
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津1233番地
TEL.096(293)3111 http://www.town.ozu.kumamoto.jp/
印刷■ホープ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

Clozu-up Ozu-jin
クローズアップ大津人

息子さんが用意してくれた衣装で歌う杉水さん㊧
杉水さんが受賞した熊日賞の盾㊨

「将来どうなるかわからない 今、自分ができることを」

すぎみず きよし
杉水 清 さん（杉水）

昨年12月4日に熊本市で開催された第35回熊本県身体障がい者歌謡祭で熊本日日新聞社賞を受賞した、大津町身体障がい者福祉会の杉水清さんにクローズアップする。

杉水さんが会に入ったのは3年前。会はグランドゴルフ大会やだご汁会などの交流活動を行っており、退職後の人生において新たな出会いを生む杉水さんの特別な場所だ。宴会の時には、みんなで歌うのがお決まりの流れ。今回は知人の勧めで初めて歌謡祭に出場した。選んだ曲は慣れ親しんだ田端義夫氏の「かえり船」。歌い初めにせりふがあるのがお気に入り。当日は、大勢の人にも特に緊張することなく、息子の用意してくれた衣装を身にまとい堂々と歌い上げた。「まさか表彰されるとは思わなかったが、応援してくれた人たちのためにも結果が残せてよかった」と笑みがこぼれる。

農家に生まれた杉水さんは、小さいころから遊ぶ暇なく働いた。20歳のころには、家の改築のために冬の3カ月間、炭鉱へ出稼ぎに出た。炭鉱での作業は、毎日けが人が出るような厳しい環境だった。それでも、師と崇める〝昭和の農聖〟と呼ばれた松田喜一さんの「人並みなら人並み、人並み外れにゃ外れぬ」という言葉を胸に、人並み以上に働いた。それは農業でも変わらず、他の人が休んでいる時間にも働き、毎年作付面積を増やすなど努力し、成長することを考え行動し続けた。

杉水さん自身が子や孫に伝えているのは「人間として生まれたからには人のためになれ」という言葉だ。自らも護川小学校への傘やテレビ、体育館の舞台幕の寄付にはじまり、熊本地震の際は町にも対して多額の寄付をするなど、さまざまな社会貢献を行っている。杉水さんは「将来どうなるかは分からない。今は自分ができることはやりたい」と思いを語る。

「人のため」を思う杉水さんの気持ちは、確実に次代の若者へつなぐべき宝だ。

つつじの声

▼2月になり、この冬初めての雪を見ました。ここまで雪が降らない冬も珍しいのではないかと思います。通勤などへの影響がないのはうれしいのですが、暑がりの私は、今までにない猛暑になるのではないかと早々と夏の心配をしています（暁）

▼新型コロナウイルスの影響でマスクが不足し、どこのお店に行っても売っていないか、個数が制限されています。しかし、マスクを付けていれば安心のような感じがしますが、人混みでない限り予防効果は低いので、やはり手洗い、咳エチケットが重要です。健康管理と合わせて小まめな予防行動をこころがけましょう（自分に言い聞かせています）（HN）

からいもくん便り

大津町総合情報メール

携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

QRコード

登録方法：ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください（スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信）。